

9/16

### 東京学芸大学から学生ボランティアと鉄矢教授特別授業



▲鉄矢教授の特別授業では子どもたちが積極的に発言していました。

連携協定を結んでいる東京学芸大学から、学生ボランティアとして3名の学生が9月5日から16日まで豊頃町に滞在し、豊頃小学校でチームティーチングとして授業の補助や学童保育所で活動しました。最終日、学童保育所では子どもたちへ新聞紙の工作と絵具を使って色が混ざる変化の楽しさを伝え「もっと時間が

あれば」と名残り惜しそうにしていました。12日(月)は、同大学から鉄矢教授が訪れ、6年生の道徳で特別授業を行いました。鉄矢教授は「好きなことは一つに絞らなくてもいい。『面白い』ことを見つけて、いろんな視野をもってほしい」と話し、子どもらは「どこが面白いかを考えてみようと思った」と感想を話していました。

9/12

### 商工会青年部と女性部が清掃活動



全国統一事業「[絆]感謝運動」の一環として、町商工会青年部(中島知也部長)と町商工会女性部(島真生部長)による清掃活動が茂岩入り口駐車場付近で行われました。中島部長は「女性部の協力もあって短時間で終了した。今後も美化活動に努めたい」、島部長は「青年部が続けているこの活動に協力できればと考えていた。今後とも協力できれば」と意欲を語りました。

9/7

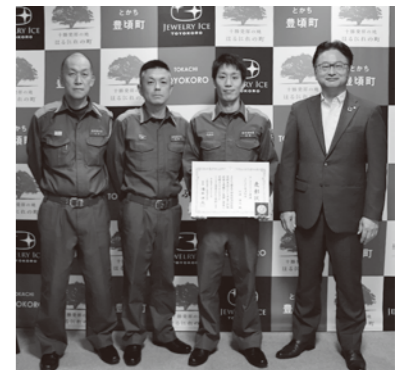
### 北海道鈴木知事が来町



北海道鈴木知事が道内各地を訪問し、地域づくりにおける創意工夫ある取り組みを広く発信していくことを目的とした「なのおみちカフェ」の一環で、ひだまり交流館を訪れました。ひだまり交流館では按田町長と町社会福祉協議会大久保係長が脳トレや認知症予防、体力づくりに効果があるという「けん玉」を使った交流サロンを紹介し、けん玉と一緒に体験するなど交流を深めました。

8/30

### 豊頃消防署古田さん 全国大会出場報告



8月26日に東京都で行われた第50回全国消防救助技術大会に出場した豊頃消防署の古田さんが按田町長のもとへ大会報告に訪れました。古田さんはロープブリッジ渡過に出場し、厳しい基準をクリアし競技を完遂できた方だけに渡される表彰状とメダルを手に「皆さんの応援で頑張ることができました」と笑顔で報告をしました。

## 豊頃町「報徳のおしえ」推進会議『ひろめよう!報徳の町に四つの心』

# 『報徳のおしえ』ととともに

## 令和3年度「報徳のおしえ」講演会《中桐万里子氏講演》

### 講演テーマ「報徳」からはじまる豊かな未来創造(その7)

〔前号の続き〕  
大久保忠真公が「身分もない素性も分らない、そんな者にすべてを任せる」とそう言うてくださった。なぜ殿はそんなことをされたのか、もちろん金次郎を信じて下さったということもあつたかも知れませんが、でも殿の思いは本当に一つだった。それは自分の藩の苦しんでいる民たちを本当に幸せにしたいと思つた。そんな時に身分にこだわっている場合じゃない。そんなことが決断の大きな理由だった。

大久保の殿様は、亡くなるまで毎日毎日、胸元に何か紙を挟んでいたのだそうです。何が書いてあるのかわからないけれど殿様は、とてもその紙を大事にしていた。そして何かがあると、その紙に手を置いていたというのには有名な話だつた。でもそれが何の紙なのか分からなかつた。殿様が亡くなって初めてその紙を開いてみると、そこには、町で一生懸命農業に励んでいる農民の名前が記載されていた。「私はこの者たちを幸せにするのが使命である。それが自分の仕事である」という一句が添えられていたという。正にこの殿の思い。そして殿が町の者たちを思っている。その思いに感動した。そして、自分にその役を任せてもらったその思いにこそ感動した。だからその

恩に何とか報いたい。庶民代表として農民代表として、何とかその思いに応えたい。というふうに金次郎は思つた。

さらに殿だけではない。見回してみれば自分には、一生懸命自分を支えようとしてくれている家族がいる。仲間がいる。土地の人々がいる。名前も顔も知らないけれど、多くの先輩たちもいた。お弟子さんたちもいた。そうやって自分を懸命に後押しして、一生懸命思いを持ってくれている人たちに、何とか応えていきたい。「自らが仕事をやる理由。始まるの場所。そんな根つこの場所は、私には殿や酒匂川に人生を尽くしてくれた先輩方、そんな人たちがいるのかもしれない。大きな目標のためではなくて、その人々の思いに応えたい。そこが私の始まりの場所の様な気がする」と、金次郎はそんなふう

に答えるわけです。  
金次郎は言います。「一人一人の人間は、ある意味で小さい小さい種みたいなものではないだろうか。私たちは、赤い花になつたり白い花になつたり、夏に咲いたり冬に咲いたり、それぞれに個性を持っている。それぞれに役目を持っている。それぞれに持っているその役目を、自身で大きく花開かせるためには、いったい何をしたらいいと思うか?」

と尋ねると、「私という種が花を開かせるには



問合せ先

教育委員会社会教育係 ☎579・5801



ポイントは  
土を知り根を張る  
花を咲かす

れは小さな考え方だ」と金次郎は言うのです。  
一粒の種が最初は傷つくかもしれない。汚いかもしれないけど、その後、花を咲かせてどうなるか。一粒の種には、万倍の種がついていく。種は土と出会い互いに働き合うことで、万倍の大きな自分になるのではないか。たつた一粒から始まっているのに、沢山の種を作り出すことになるのではないか。人間もまた同じではないかと思うのです。  
生まれてきた時はたった一人で、何も持たずに何もできずに生まれてくる。でも社会の中でたくさんの人々と関りながら、万倍の種に成長していく。正に私たちの社会も同じようにできていく気がするのです。この「える夢館」をどんな人の汗で、どんな思いで建てたのか、私たちは知らないかもしれない。分解されて土になつたかもしれない。でも確かにこの「える夢館」の中で、私たちはたくさん